

一関市議会議員 勝浦 伸行



ブログでも発信を続けています。**10万アクセス突破**。前号までの議員活動報告も見れます。「勝浦のぶゆき」と検索ください。携帯電話では右上のQRコードで一発表示できます。



新しい議員を目指します

1	建設的な提案型議員
2	必ず議会報告を行う議員
3	地元と新一関市全域の両方を考える議員
4	子育て世代を応援する議員
5	次に続く人のためにお金をかけない選挙

私の提案施策（公約）

協働	1	広域合併の根本問題の解決。 地域の声を行政にしっかりと届ける 公民館単位の地域組織の制度制定。
図書館	2	巨額を要する一ノ関駅舎の移設建設は再考。 教育立市にふさわしい中央図書館の建設。
農業	3	農業は注目の産業。一関農産物のブランド化。 中山間地の兼業農家を支援する施策実施。
教育	4	子どもにも夢を与える世界的な研究施設の ILC（国際リニアコライダー）誘致への取組み。

<はじめに>

東日本大震災から早いもので9ヶ月が過ぎました。私自身も予期しない大震災でしたが、議員として様々な形で復旧対応に努力してきました。現在は放射能対策が中心です。

早いもので、議員活動も折り返し点となりました。震災対応により一時中断していた議員活動報告と議会報告会を新たな気持ちでスタートしていきます。**今回報告のテーマは「私の提案施策」です**。1年以上にわたり取り組んできた下水道計画見直しや浄化槽整備手法統一に関する「**汚水処理施設整備事業**」などを報告いたします。

# 私の提案① 汚水処理人口普及率を高めるべき

## 10年を一つの目標に大胆な政策を実行すべき

### ①一関市の汚水処理人口普及率は低い

汚水処理整備事業は公益性が高く、行政の果たすべき役割が非常に大きい事業です。一関市の汚水処理人口普及率は約50%で、全国平均81%、岩手県平均70%を大きく下回っています。この現状から、一関市の汚水処理施設整備事業の推進は一関市の抱える大きな課題です。

### ②下水道計画区域を縮減すべき

今後投入予定の下水道事業費は約400億円で、その内一関地域と千厩地域で96%の392億円です。また、最終的な下水道整備地域の事業着手予定が平成44年以降で、完成予定は平成55年と予定されています。事業費が巨額な上に、今後30年以上も待たなければいけないという非現実的な計画です。一日も早く快適な生活ができるように、下水道計画区域を縮減し、その地域には以下の「市町村設置型」浄化槽の設置を進めるべきです。

### ③浄化槽事業は市町村設置型で統一すべき

今後一関市の人口の6割が利用すると考えられる浄化槽の整備は重要です。一関市の浄化槽整備事業は後述する「市町村設置型」と「個人設置型」が併存しています。一関市はその手法の統一を目指してきましたが、いまだにその結論を出すことができていません。現在の整備状況は全体で37%。「市町村設置型」を採用している地域では、東山81%、川崎51%、大東42%。「個人設置型」では千厩35%、一関33%などです。「市町村設置型」の3地域の整備進捗率が高くなっています。

#### 【市町村設置型と個人設置型の違いは？】

★「市町村設置型」(大東、東山、川崎地域が採用)

下水道等の集合処理を実施する事が困難な地域に個別処理施設として市が浄化槽を設置や維持管理するもので、下水道区域と同様に使用料・分担金を徴収し事業を行う方式で、国から市への補助があるために設置時の費用(個人負担金)は約18万円で済みます。

★「個人設置型」(一関、花泉、千厩、室根、藤沢地域が採用)

こちらは個人が浄化槽を設置や維持管理するものです。設置費用は市から個人へ一部補助され、約65万円です。

私は以下の理由により「市町村設置型」に統一すべきであると考えます。

◎利用者の初期投資が格段に低い

◎維持管理を市が行うため、ほぼ完全に水質及び環境保全が図れること

◎下水道利用者との税の公平性を保つため

(私が昨年度の決算書で調査したところ、汚水処理事業への一般財源からの赤字補填額は1世帯あたりに直すと、下水道が約7万円、市町村設置型浄化槽が約2万円となります。一方、個人設置型浄化槽は管理補助費がないため0円です)

#### <まとめ>

汚水処理整備事業の整備促進は一関市が抱える大きな行政課題です。私は、合併後の10年を一つの計画目標として、汚水処理人口普及率をあげるため、大きな政策転換を行うべきであると考えます。

一つが、財政的に非常に大きな負担となる下水道事業の縮減です。

そしてもう一つが、今後一関市の人口の6割が利用すると考えられる浄化槽の整備手法を「市町村設置型」で統一することです。

## 私の提案② 真の市民協働のまちづくりを目指せ

### 市民の声を聞き、将来を見据えた施設整備を行うべき

#### ①市民プールの建設等、体育施設整備は将来を見据えて

一関市民プールの建設は、

- ・移転場所が一関総合体育館隣接地であること
- ・面積が現状の2500㎡から4倍の10000㎡となること
- ・従来のサブプールが44㎡であったものが、25メートルプールを要す10倍の400㎡となったこと

など単なる機能確保を優先した建築ではありません。また、一度建設されれば、少なくとも30年、もしくは50年に亘って市民に利用される施設です。

しっかりと市民の声を聞く必要があったと考えます。一関市民プールの建設に関して、市民や議会に対して実施計画までの進め方が不十分であったことを反省し、今後は市民協働で進める必要があります。



#### ②中央給食センター建設地は再考を

一関市総合体育館周辺は、非常に優れた体育館を中心に、遊水地記念公園、多目的広場、あいぼーと、磐井川河川公園を有する一関市が各種大会を招致するのにふさわしい環境を有しています。今回この地に、日本水泳協会公認プールが建設されます。中東北の拠点都市として、水泳競技においても、様々な大会を招致できる環境が整いつつあると私は、非常に喜んでおります。

そのような中、今回唐突に教育委員会から建設予定の市民プールの隣に、食品工場ともいえる中央給食センター建設予定が説明されました。私は、一関市が誇る総合体育館周辺整備に関しては、しっかりと市民の声を聞き、将来を見据えた体育施設整備を進めるべきと考えており、中央給食センター建設地の再考を提案しています。

## 私の提案③ 学校図書館の充実を

### 市立図書館と学校図書館の連携が重要

#### ①学校図書館運営システムの早期導入

学校図書館の現状は、読書普及員の配置や国の補正予算活用による学校図書費の増額、PTAや地域住民による読書ボランティアの協力などにより、目に見えて環境が良くなっています。

しかし、旧西磐井地区の学校には未だに「学校図書館システム」が導入されておらず、多くの作業が手作業のままです。早期の学校図書館システム導入と市立図書館・学校図書館連携も提案しています。

#### ②学校図書館のリフォーム

新しく建築された学校の図書室の環境は抜群です。

それに対して、古い学校の図書室は書棚やテーブル等も古く、快適な読書環境ではありません。学校図書館の現状把握とリフォームを提案しています。



## 私の提案④ 安全安心なまちづくりを

### 地域に適した避難場所指定を

#### ① 狐禅寺公民館を避難場所として活用すべき

昨年5月にリサイクルプラザで火災が発生しました。東日本大震災で出された不燃物ゴミの処理によって起きた二次的な災害であると思っております。このリサイクルプラザは、真滝地区住民の避難場所と避難所に指定されていますが、今回の火災、そして立地場所を見ても避難場所にふさわしいとは思えません。狐禅寺幼稚園を有し、狐禅寺地区住民の活動の拠点となっている狐禅寺公民館を避難所として再指定すべきです。

私の一般質問後に検討が行われ、避難所指定の障害となっていた公民館裏山の急傾斜地の解消を図る事業が現在進んでいます。



#### ② 国道284号線の信号設置と弥栄地区の道路安全対策

弥栄地区は国道284号線、主要地方道、県道の3本の幹線道路が通り、市内でも有数の交通量があります。また、東日本大震災の発生により、沿岸地域へ向かう車で非常に混雑しています。今回、国道284号線の信号機設置、弥栄・金成線の歩道整備、県道白崖・弥栄線の未整備部分について、県警、県土木整備局、一関市へ要望を行いました。

#### ③ 子どもたちの内部被ばく調査を提案

12月議会において、放射能問題について教育民生常任委員会が開催されました。私は、子どもたちの内部被ばく問題に関して、県が行う尿検査の人数拡大と血液検査等の健康調査の実施を求めました。

## 11月より教育民生常任委員になりました

10月までの2年間、総務常任委員として活動してきましたが、藤沢町との合併、増員選挙により議員構成が変わり、合わせて委員会の変更があり、11月より教育民生常任委員会に所属する事になりました。教育民生常任委員会は、教育、福祉、民生とカバーする内容が非常に広い委員会です。やりがいのある委員会ですので、ますます頑張りたいと思っています。



市政についてのご意見・ご感想などお聞かせください。

一関市議会議員 勝浦 伸行 住所：一関市狐禅寺字宇南田22-8 TEL: 23-5143